

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 87 号	2008年10月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	------------	---

1. 活動報告（事務局 記）

— 10月5日（日）参加者は14名でした。

- ① 田んぼの稲刈り準備（防鳥ネット、電柵解体除去）
- ② エコアップ草の片付け、
- ③ 昭和山遊ロードの草刈り

— 10月18日（土）午前は、もち米の稲刈りとハゼ懸けをしました。

23名の会員、観察隊隊員18名保護者会員15名、二俣瀬子供会関係12名、小学校校長、先生2名 総計70名でした。

秋の味覚の団子汁をふるまいましたが、昨今話題となっている無農薬、自然農法でそだてた野菜を使ったもので材料集めは苦労しましたが健康的に美味しく食すことができました。

午後 里山自然観察隊（森の探検）は「木の実・キノコ」を採取し勉強しました。隊員24名保護者会員18名、会員スタッフ7名の総計49名でした。

昭和山遊ロード沿いはキノコの採集や木の実、山を降りてから須賀河内川上流へ市道を上がってノブドウ、ムベの実、クリをもぎ取ったり拾ったりして楽しい探索になりました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

— 11月15日（土）厚東川水系 森・川・海 水環境ネットワーク協議会主催「平成20年度体験学習」 午後学習あり案内講師3名～4名ご希望

◎ 行事

— 10月28日（火）午後1時（稲脱穀）（臨時活動）

天気の都合で変更があるかも、参加者募集しています。

— 11月3日（月）に変更（総会計画は11月1日）

ソバ刈取、ハゼ掛け乾燥

維持活動エコアップ （スゲ、イグサ、アサザ、ヒツジグサ）

— 11月22日（土）午前 維持活動、ソバこぎ、修復作業

午後 里山自然観察隊（里山の暮らし）

— 11月下旬 - 「厚東川水系協議会・宇部市環境共生課・ビオトープを作る会」三者会議
“ビオトープ借用土地の協議会” 市役所会議室にて

3. 来訪者の声 （東屋のノートより一部抜粋）

今月は記載ありませんでした。

4. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち） 管 哲郎

（5）ベニイトトンボ（イトトンボ科）

Ceriagrion nipponicum ASAHINA, 1967

環境省に同じく山口県も絶滅危惧Ⅱ類に指定されていますが、生息調査が進むにつれ、あちこちのため池などで案外たくさん生息地が発見されています。

植生豊かなため池などに多くみられ環境への適応力がきわめて高いようで、池の改修工事や水抜き作業にも耐え、一時的に数は減少しますが絶滅するほどでもないようです。

体長（全長）は約4 cm ほどで、
♂は全身があざやかな朱紅色をし、
♀の胸は黄緑色で胴は黄褐色です。

本州・四国・九州に分布し、中国地方では山口県だけでしたが、最近になって広島県、島根県でも確認されました。

九州南部にはリュウキュウベニイトトンボが生息しています。♂の胸は黄緑色をしており本種と区別できますが、♀は比べてみても慣れないと難しいようです。

成虫の出現期は5月下旬～10月上旬くらいですが、夏場が最盛期のようです。

〔参考文献〕 中国・四国のトンボ図鑑



ベニイトトンボ（♂）



ベニイトトンボ連結産卵



ベニイトトンボ交尾連結



リュウキュウベニイトトンボ交尾連結

5. 会員の声 (原田満州夫)

“合鴨の飼育と稲作について -Part-2”

九州より買った合鴨のヒナを我が家で養育することになった。わずか10日間くらいであったが土間の部屋の中でピーピーと鳴いて餌をしょっちゅう欲しがった。早く大きくなれ柿の種ではないが、常にのど元を膨らましていた。1週間を過ぎたころから10羽はビオトープへ軽トラックで運んでは外気での馴らしと古代蓮池で遊泳の訓練に連れて行った。近所の女性がウオーキング途中“かわいいかわいい”“よく言うことをきくね”と言ってきて鼻高々である。

3月に孵化した先輩合鴨6羽がやきもちを焼いて隣のハス池から覗き込むように連隊でガアーガアーと鳴いて騒々しいのも、なんのその雛たちは悠々に泳いでいる。

7月5日田んぼの苗も確り育ったため放鳥と相成った。今年は害獣からの保護で周囲のネットと電気柵および上空からの防御で糸張と昨年より増して過保護でヒナの活躍を願った。

放鳥後一晩をあけて朝早く数を確認してみるといくら数えても9羽しかおらず、何かに盗られたか全周を探し回ったが分からずじまい。上部からカラスかサギまたは猛禽類からか？早速追加糸張りを実施、3日目は8羽になって電気柵の電線を追加、さらに1週間後はネットを飛び越えて田んぼの外回りや須賀河内川内に外出したりしたため7羽となった。したがって全集を50cm高く新ネットを張ったりしてようやく内外の保護ができたのである。

毎日朝晩覗いては数を数え、餌をやり心配しながら楽しんでヒナと接触することができた。

8月の中旬稲穂が出初めてようやく合鴨の仕事は除草、土中に酸素供給、肥料供給、イナゴやうんか等の虫とりから解放され蓮池に戻すことができた。この間兄貴分の合鴨は養子先の(山中)国道二号線沿いの「つるや食堂」裏の池に行って悠々遊泳している。

田んぼの仕事が終わった7羽の合鴨の行き先が今後の課題として残ったのである。

6. 里山自然観察隊(森の探検、10月18日、隊員24名、保護者18名、会員7名)

好天に恵まれ、昭和山と須賀河内川沿いを散策しました。例年に比べ今年は参加者も多く、熱心にノートにメモを取っていました。昨年沢山採れたアケビは数も少なく、ほとんどが実を開いていました。でも、フユイチゴ・ノブドウ・エビヅルなど沢山食べられる実を見つけて、おいしそうに食べていました。カキ(渋いやつ)やクリも採って帰る人もいました。シイの実も今年は少なかったです。キノコは隊員が多く見つけてくれましたが、名前の同定までには時間的に出来ませんでした。

木の実 ドングリのなかま：アラカシ、コナラ、シイ

球果：アカマツ、ネズミサシ、オオバヤシャブシ、ヒメヤシャブシ、メタセコイア

液果：エビヅル、ノブドウ、カキ、フユイチゴ、マンリョウ、ヤブコウジ、サルトリイバラ、ヒサカキ、ガマズミ、ゴンズイ、カマツカ、クロミノサワフタギ、コマユミ、ソヨゴ、ノイバラ、ヤブムラサキ、ムラサキシキブ、ネジキ、シャシャンボ、アオツヅラフジ、ウメモドキ

その他：アケビ、ムベ、クチナシ、リョウブ、イヌザンショウ、カラスザンショウ、クズ、ニセアカシア

キノコ オニタケのなかま：1種(オニタケ?)

シメジのなかま：3種(キシメジ?、クサウラベニタケ?、?)

テングタケのなかま：2種(シロツルタケ?、?)

イグチのなかま：1種

サルノコシカケのなかま：2種

ホコリタケのなかま：1種(ノウタケ?)

(西原 一誠 記)

7. 会よりの連絡事項 （事務局より）

新入会員のお知らせ、山口県宇部健康福祉センターの**恵本 佑**さんです。18日の活動に参加され、入会されることになりました。今後の活動に期待いたします。

8. 編集後記

今年は、例年になく豊作のようです。台風がこなかったせいで、米や果物の出来が良いと新聞でも報じられていました。私の部屋から柿の大木が見えるのですが、これにも多くの実がなっています。二十年以上この木を見つづけているのですが、今年のような豊作は初めてです。人間の手のとどく範囲は収穫されていますが、上半分は実が残っています。もうすぐ、鳥たちのご馳走になることでしょう。

台風が来なかったのは良いことなのですが、心配なのは水不足です。私の記憶では、今月に入って雨が降ったのは参集日であった第一日曜日だけです。先月も台風が全てそれたせいか、あまり雨が降っていません。このままいくと、来年の初めには水不足になるのではないのでしょうか。風も吹かず、雨も降らず、秋晴れの日が多いことは、非常に快適です。しかしこれも、異常気象の一つではないのでしょうか。

（前田 歳朗 記）

10月5日例会、朝のミーティング、いつも真ん中に座って居られる事務局長、めずらしく姿が見えない。現場の作業へ。倉庫の鍵がない。周りを捜すもわからない。道具なしで作業。いつもは予定を立て必要な準備をしてもらっていてスムーズに行動されていた事。余りにも今まで頼りきり、いや、おまかせして甘えていた事を痛感した例会でした。事務局長だけにではありませんが・・・

（松本 フデ子 記）